

2017年(平成29年)

8月25日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

8/3~8/9のNYMEX・WTIは、49.03~49.58ドルの狭い範囲で推移した。

8月10日は、OPEC月報の7月増産報告、ロシア関係者の協調減産終了後の増産発言、利益確定売り等もあり、反落した。9月限の終値は前日比0.97ドル安の48.59ドルだった。

週末11日は、ドル安・ユーロ高で反発した。9月限の終値は前日比0.23ドル高の48.82ドルだった。週明け14日は、中国原油処理量減少のロイター報道、急速なドル高に伴う割高感から、大幅に反落した。終値は前週末比1.23ドル安の47.59ドルだった。15日は、わずかに続落した。終値は前日比0.04ドル安の47.55ドルだった。16日は、EIA週報で原油生産が増加したことから、3日続落した。終値は前日比0.77ドル安の46.78ドルだった。17日は、米在庫の取り崩し報告や前日までの反動買いなどで、4営業日振りに反発した。終値は前日比0.31ドル高の47.09ドルだった。週末18日は、米国株価の下げ幅圧縮の安心感等により、大幅続伸した。米国内石油掘削リリグ稼働数763基(前週比5基減)の2週振り減少の発表も支援材料となった。終値は前日比1.42ドル高の48.51ドルだった。

週明け21日は、利益確定売りに押され、3営業日振りに大幅反落した。終値は前日比1.14ドル安の47.37ドルだった。22日は、在庫取り崩し期待から反発した。終値は前日比0.27ドル高の47.64ドルだった。23日は、EIA週報の米国の原油・ガソリン在庫取り崩し報告、メキシコ湾でのハリケーン発生による供給懸念等から、続伸した。この日から中心限月となった10月限の終値は前日比0.58ドル高の48.41ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は、前週50.60~51.00ドルの狭い範囲で推移した。8月

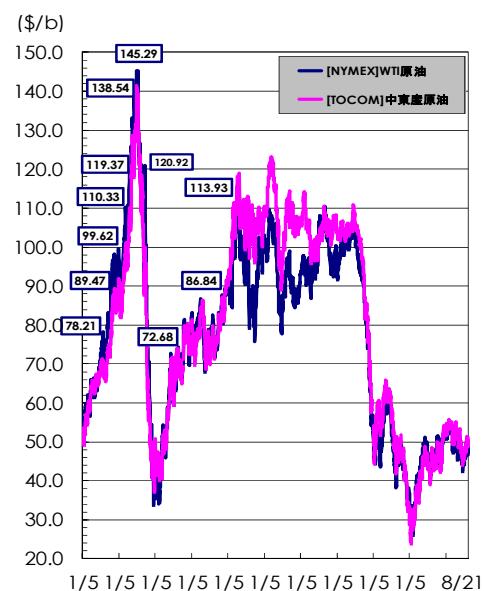
10日51.50、14日50.40、15日49.40、16日49.50、17日48.70、18日49.00、21日50.60、22日50.00、23日は49.70ドルで推移した。

為替は、前々週、前週110.00~110.77円での狭い範囲で推移した。8月16日110.71円から22日109.15円の範囲で推移し、23日は109.74円で推移した。

財務省が17日発表した貿易統計速報は、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、34,033円/klとなり、前旬を120円下回った。ドル建てでは47.77ドルで前旬比0.48ドル安。為替レートは1ドル/113.28円。また、同日発表の月間ベースによると、7月の原油輸入平均CIF価格は、34,241円/klとなり、前月を2,171円下回った。ドル建てでは48.43ドルで前月比3.78ドル安。為替レートは1ドル/112.41円。

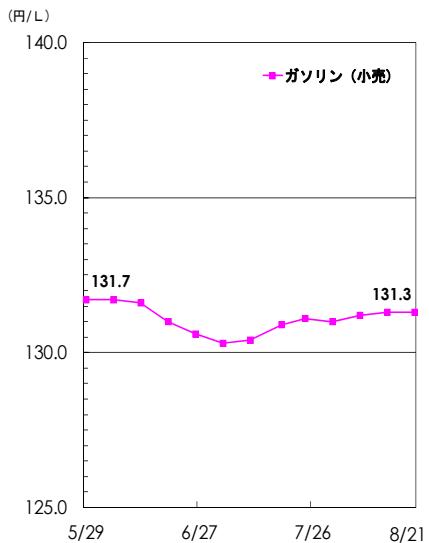
主要元売会社の8月第4週に適用する卸価格は、0.5円~1.0円の値下げに分かれた。原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートの円高が相殺し、原油調達コストはほぼ横ばいだった。そのような中で、8月14日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの131.3円、軽油は横ばいの110.2円、灯油は横ばいの76.1円だった。また、8月21日時点は、ガソリンが横ばいの131.3円、軽油も横ばいの110.2円、灯油も横ばいの76.1円だった。ガソリンは3週振りに値上がりが止まり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は4週連続の横ばいだった。この週(8月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、据え置きと0.5円の引き上げに分かれた。また8月第4週の原油コストは横ばいで、元売の卸価格は、据え置きと0.5円の引き下げに分かれた。

原油		今週		前週比	前年比
		8/13 ~ 8/19	3,822		
需給	原油処理量 (千kl)	8/13 ~ 8/19	3,822	▲ 91	▲ -
	トップ稼働率 (%)	〃	97.6	▲ 2.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/19	14,159	▲ 1,286	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/21	50.52	▲ 0.02	▲ 3.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/21	47.37	▼ -0.22	▲ 0.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	47.77	▼ -0.48	▲ 0.03
	①原油CIF単価 (¥/kl)	〃	34,033	▼ -120	▲ 3,080
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	113.28	▼ -0.75	▼ -10.20
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/21	110.37	▲ 0.05	▼ -8.74



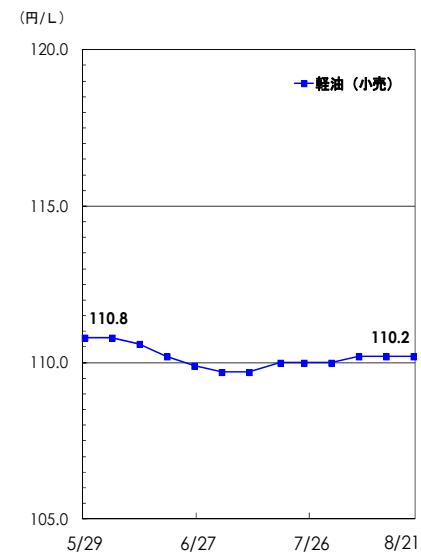
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	1,121	▲ 67	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	988	▼ -92	▼ -
	輸出	"	67	▲ 47	▼ -
	在庫	8/19	1,711	▲ 67	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	8/15 ~ 8/21	49.2	▼ -0.7	▲ 7.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	49.4	▼ -0.9	▲ 8.1
		(TOCOM/中部)	8/21	49.1	▼ -0.9
				▲ 7.5	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	131.3	► 0.0	▲ 9.6

※業転、先物価格は税抜き価格

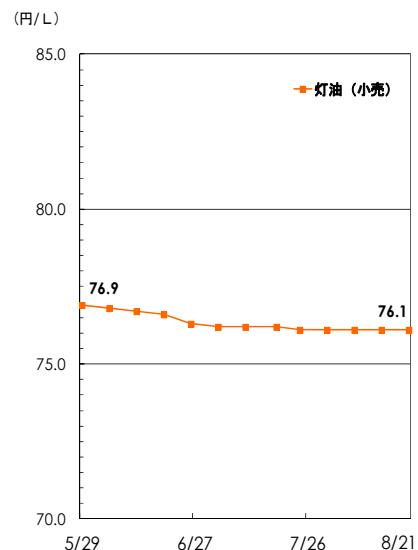


軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	877	▼ -23	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	402	▼ -346	▼ -
	輸出	"	271	▲ 83	▲ -
	在庫	8/19	1,594	▲ 203	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	8/15 ~ 8/21	48.0	▼ -0.4	▲ 9.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	48.0	► 0.0	▲ 8.5
		(TOCOM/中部)	8/21	-	-
				-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	110.2	► 0.0	▲ 8.2

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	294	▲ 104	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	71	▼ -9	▲ -
	輸出	"	0	▼ -38	▼ -
	在庫	8/19	2,226	▲ 223	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	8/15 ~ 8/21	47.3	▼ -0.4	▲ 11.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	47.5	▼ -0.9	▲ 9.2
		(TOCOM/中部)	8/21	47.8	▼ -0.2
				▲ 10.4	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	76.1	► 0.0	▲ 12.2



■ 関連情報

1 海外/原油

8月23日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国原油在庫は前週比330万バレル減と市場予想(同350万バレル減)とほぼ同様、8週連続減少となったこと、ガソリン在庫も同120万バレル減と市場予想(同60万バレル)を上回ったことから、続伸した。メキシコ湾でのハリケーン発生による供給懸念も支援材料。10月限の終値は、前日比0.58ドル高の48.41ドル、11月限の終値は前日比0.60ドル高の48.62ドルだった。

EIAによると、8月14日時点のガソリンの小売価格は前週比0.6セント値上がりの1ガロン2.384ドル(69.5円/㍑)となつた。ディーゼルは前週比1.7セント値上がりの2.598ドル(75.7円/㍑)。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは7週連続の値上がり。また、8月21日時点のガソリンの小売価格は前週比2.4セント値下がりの1ガロン2.360ドル(68.1円/㍑)となつた。ディーゼルは前週比0.2セント値下がりの2.596ドル(74.9円/㍑)。ガソリンは5週振りの値下がり、ディーゼルは8週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、8月13日～8月19日に休止したトップ一能力は0万バレル/日で、前週に対して横這いであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は382.2万kLと、前週に比べ9.1万kL増加。前年に対しては6.7万kLの増加。トップ稼働率は97.6%と前週に対して2.3ポイントの増加、前年に対しては9.2ポイントの増加となつた。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となつた。ガソリン/6.4%増、ジェット/16.8%減、灯油/54.8%増、軽油/2.6%減、A重油/1.7%減、C重油/32.6%増。今週のC重油の輸入は0.3万kL(前週比1.6万kL減)。軽油の輸出は27.1万kL(前週比8.3万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットのみが増加し、その他の油種で減少した。前年比では、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は98.8万kL(前週8.5%減)と2週連続で前週比で減少、9週連続で前年比で減少となり、3週振りに100万kLを下回つた。

ジェット15.9万kL(前週87.7%増)、灯油7.1万kL(前週11.4%減)、軽油40.2万kL(前週46.2%減)、A重油9.4万kL(前週38.3%減)、C重油18.5万

kL(前週15.7%減)。

(単位:千kL)

	今週 (8/13 ~ 8/19)	前週 (8/6 ~ 8/12)	前週比
ガソリン	988	1,080	▼ -92 (-9%)
ジェット燃料	159	85	▲ 74 (87%)
灯油	71	80	▼ -9 (-11%)
軽油	402	748	▼ -346 (-46%)
A重油	94	152	▼ -58 (-38%)
C重油	185	220	▼ -35 (-16%)
合計	1,899	2,365	▼ -466 (-20%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月19日時点の在庫は、ジェットのみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなつた。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなつた。

ガソリンは171.1万kL、前週差6.7万kL増。前年に対しては11.9万kL多い。

灯油は222.6万kL、前週差22.3万kL増。前年に対しては22.2万kL少ない。

軽油は159.4万kL、前週差20.3万kL増。前年に対しては32.2万kL少ない。

A重油は82.0万kL、前週差4.5万kL増。前年に対しては3.0万kL多い。

C重油は221.5万kL、前週差8.7万kL増。前年に対しては18.2万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (8/19)	前週 (8/12)	前週比
ガソリン	1,711	1,644	▲ 67 (4%)
ジェット燃料	1,050	1,124	▼ -74 (-7%)
灯油	2,226	2,003	▲ 223 (11%)
軽油	1,594	1,391	▲ 203 (15%)
A重油	820	775	▲ 45 (6%)
C重油	2,215	2,128	▲ 87 (4%)
合計	9,616	9,065	▲ 551 (6.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月8日から14日までの原油コストは、原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートの円高がこれをほぼ相殺し、原油コストはほぼ横ばいだったと見られる。陸上スポット価格は、ガソリン103円台でやや軟化、軽油48円台でほぼ横ばい、灯油47円台でやや軟化した。海上スポット価格は、ガソリン106~107円台で軟化、軽油49~50円台で連日動き、灯油47~48円台で連日動いた。先物価格は、ガソリン103~104円台で軟化、軽油48円台で横ばい、灯油47~48円台で連日動いた。元売の卸価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。

また、8月15日から21日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値下がりしたと見られる。陸上スポット価格は、ガソリン102~103円台で軟化、軽油47~48円台でやや軟化、灯油47円台でやや軟化した。海上スポット価格は、ガソリン105~106円台で連日動き、軽油48~49円台で連日動き、灯油46~47円台で連日動いた。先物価格は、ガソリン102~103円台で堅調、軽油48円台で横ばい、灯油47円台で連日動いた。元売の卸価格は、0.5~1.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月8日から14日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、海上・先物のガソリン、先物の灯油・軽油を除き、値下りした。8月15日から21日の原油コストは値下がりし、製品スポット市況は、先物の軽油を除き、全て値下りした。

8月第5週(8月24日~30日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月15日~21日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値下がり(8月8日~14日は▲0.4円)、灯油は0.4円の値下がり(同▲0.3円)、軽油は0.4円の値下がり(同▲0.3円)だった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円の値下がり(同+0.8円)、灯油は0.8円の値下がり(同▲0.2円)、軽油は0.8円の値下がり(同▲0.3円)だった。先物価格は、ガソリンが0.9円の値下がり(同+0.1円)、灯油は0.9円の値下がり(同横ばい)、軽油が横ばい(同横ばい)だった。原油価格は値下がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値下がりだった。

8月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。また、8月第5週は、0.5~1.0円の値下げとなった。なお、元売会社は、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方に変更した。

4 国内/製品小売価格

8月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの131.3円、軽油は横ばいの110.2円、灯油も横ばいの76.1円だった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは21都府県、横ばいは10県、値下がりは16道県、全国最安値は、埼玉県の126.7円(同0.2円安)、最高値は沖縄県の140.5円(同0.5円高)だった。最も値上がりしたのは岡山県(128.6円、前週比+2.4円)、最も値下がりしたのは鹿児島県(138.3円、同+0.9円)だった。

また、8月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの131.3円、軽油も横ばいの110.2円、灯油も横ばいの76.1円だった。ガソリンは3週振りに値上がりが止まり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は4週連続の横ばいだった。都道

府県別に、ガソリンの値上がりは21都県、横ばいは9府県、値下がりは17道府県、全国最安値は、埼玉県の127.4円(同0.7円高)、最高値は沖縄県の140.3円(同0.2円安)だった。最も値上がりしたのは鳥取県(129.4円)と埼玉県(127.4円、共に同+0.7円)、最も値下がりした県は北海道(131.0円、同▲0.7円)だった。

原油コストはほぼ横ばいで、3週振りでガソリン小売価格は値上がりが止まった。今週の原油価格は値下がりし、為替レートがほぼ横ばいで、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、0.5~1.0円の値下げとなった。次週(8月28日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]						(単位:円/㍑)		
小売価格	今週 (8/21)	前週 (8/14)	前週比	直近高値				
レギュラー	131.3	131.3	➡ 0.0	08/8/4	185.1			
灯油	76.1	76.1	➡ 0.0	08/8/11	132.1			
軽油	110.2	110.2	➡ 0.0	08/8/4	167.4			

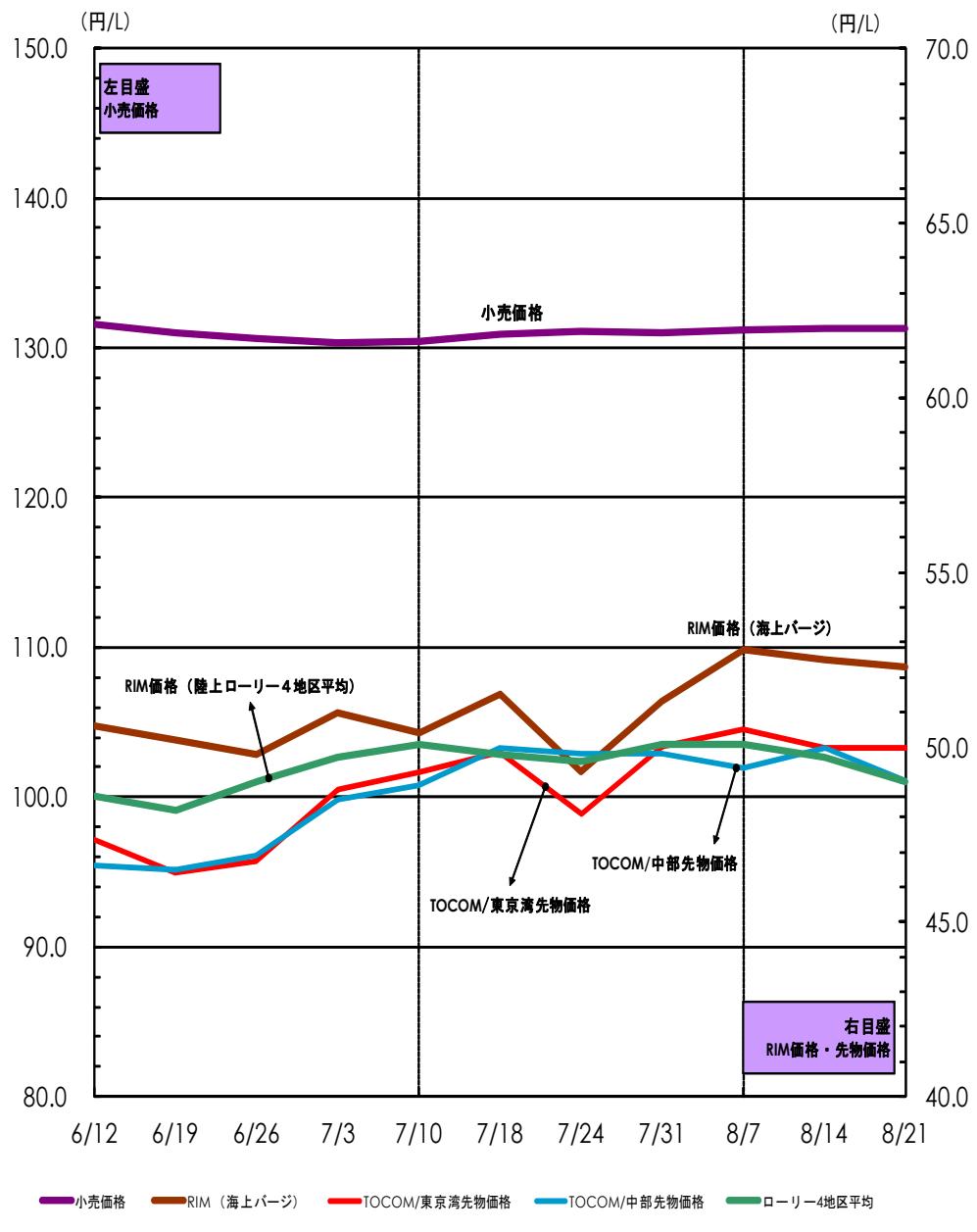
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/6/12 ~ 2017/8/21)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2017第20号) の公表は、9/1 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。